

短期滞在要領・鹿児島編

～これからリタイアする団塊の世代に贈る～

<概要>

団塊の世代は、生活に余裕のある小金持ちの世代である。定年後の夢としては、海外旅行が上位にあがっており、旅行内容は連れ合いの意向を汲んでか、ゆとりが感じられるプランに人気があるようだ。さらに旅行熱が高じてくると、1ヶ月程度の海外短期滞在を、毎年違った場所で行おうとする人達が増えてくると考えられ、そうすると国内短期滞在の需要も平行して増えてくると考えた。そこで鹿児島在住10年の経験から、おこがましくも“鹿児島における短期滞在のやり方”について紹介するとともに、“あったらいいなと思うサービスやシステム”についての空想を書き加えた。

短期滞在要領・鹿児島編

～これからリタイアする団塊の世代に贈る～

はじめに

団塊の世代とは、1947年から1949年に生まれた世代を指し、その人口は約800万人で、60才定年が始まる2007年からの数年間は、熟練した労働力が失われる反面、高給取りが居なくなって、企業や役所の収益が改善すると言われている。団塊の世代は、年金崩壊の危険性が低いとみられ、住宅ローンを終えて子供が独立すれば、生活に余裕のある小金持ちの世代である。団塊の世代の定年後の夢としては、海外旅行が上位にあがっており、旅行内容は連れ合いの意向を汲んでか、ハイキング、美術館見学、田園散策といったゆとりが感じられるプランに人気があるようだ。さらに旅行熱が高じてくると、1ヶ月程度の海外短期滞在を、毎年違った場所で行おうとする人達が増えてくると考えられ、そうすると国内短期滞在の需要も平行して増えてくると考えた。そこで鹿児島在住10年の経験から、おこがましくも“鹿児島における短期滞在のやり方”について紹介するとともに、“あったらいいなと思うサービスやシステム”についての空想を書き加えた。

1. 衣

鹿児島の気候はおおげさに言うと、4月から10月までが夏で11月から3月までが冬である。夏はTシャツと麻の長ズボンと短パンがあればいい。帽子、サングラス、タオルは必需品だ。冬は長袖シャツにフリースがあれば何とか過ごせる。寒いのは、早朝の運転時と車から店に入るまでの間で、そこをちょっと我慢すれば済んでしまう。着替えは何枚か必要だが、鹿児島県内にはユニクロがあるからそこで調達することとして、普段着で鹿児島に来て、帰りはどちらかをバザーに出す手もある。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① フリーマーケットやバザーなどのサービスが毎月あれば、もっと安く調達できる。
- ② クラブやラケットなどのスポーツ用品が、レンタルできるようなサービスが必要である。
- ③ NPOが発行する、顔写真付きの短期滞在者パスを見せると割引があるとか、鹿児島県内で買い物をするとクレジットのポイントが倍増するとか、価値あるもので短期滞在者のお財布が緩み、同時に鹿児島県人も儲かるようなサービスが望まれる。

2. 食

鹿児島は農業県であるから、食材は豊富である。とりわけ黒豚、黒毛和牛、焼酎、黒酢は全国的に知られている。黒豚はナリザワの沖田さんの黒豚がおいしい。黒毛和牛はダイエーの薩摩和牛のヒレ肉が4割引の時に買うといい。おいしい地鶏の刺身はどこのスーパーでも売っている。海産物も豊富だ。真鯛、石鯛、石垣鯛、伊勢エビは活魚店で手に入る。とりわけ石垣鯛はいけすに泳いでいるのを刺身にして残りのアラを一緒にもらおうといい。石垣鯛の刺身はこりこりとして甘く、アラは軽く焼いて澄まし汁にして、骨ごとしゃぶって食べるのが最高だ。伊勢エビは刺身にして、殻つきをみそ汁にすれば他に何もいらぬ。野菜も新鮮で、郊外にいけば100円売り場が至るところにあるし、ダイエーでもそこそこのものは手に入る。果物はポンカン、タンカン、ボンタン、桜島小ミカンなどの柑橘類がおいしい。米は棚田のヒノヒカリがおいしい。これらの食材を安くおいしく食べるためには、自炊が絶対条件で、食べ方は①刺身、②塩焼き、③味噌汁で十分である。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① 香港にレイユームーンという場所があり、いけすから鯛やエビを買い、調理方法を指

定すると、見ている前で調理して皿に盛ってくれる。簡単な味付けではあるが、揚げものや炒めものには大きな火力が必要で、家庭ではなかなかできないものだ。自炊に飽いた時には、そういう場所で食べることができると気分転換になるし、遊び仲間と大勢でワイワイやりながらの食事は、旅の楽しい思い出になるだろう。

- ② 一方、鹿児島島の食材は新鮮ではあるが、農薬の使用度合いが不明なものが多い。郊外の100円売り場でも無農薬有機栽培の認証を出して、それに県外の消費者の人氣が集まるようになれば、生産者はお金も健康面も助かるから、栽培方法を変えるだろう。

3. 住

旅費の中で最もお金がかかるのが住居費である。ホテルパックのように2日前後であれば交通費に含まれてしまうが、1ヶ月単位となると現状では探すのに苦労する。簡単に思いつくのはマンスリーマンションかビジネスホテルの長期滞在割引だろう。マンスリーは、鹿児島市内、1K、駐車場付き、ネット付きで検索すると、木造20㎡で約53,000円/月の物件があったが、それ以上の広さの物件は見あたらなかった。ビジネスホテルは、シルバー割引や土日割引を加味してもツインは日5,000円内外であるから、月当たりに換算すると約150,000円となる。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① 鹿児島市内では、中心部がマンションラッシュとなっているから、郊外の空家が増えているだろう。NPOが数年契約で借り上げて、短期滞在者に月極で安く提供する方法はどうか。
- ② 公団や市営・県営住宅で入居率が低い所は、積極的にマンスリーでやったらどうか。
- ③ 離島では生活手段が限られているから、公共事業で個人宅の宿泊部屋増築を行えば、定住促進にも役立つのではないだろうか。
- ④ 10島で2,000万円×100戸=20億円くらいになるが、フェリー利用や生活用品購入が増えるから、他の事業に比べて総便益費では劣るものの、利用価値は高いだろう。

4. 足

地方都市では、車は生活必需品である。中心部に住んで、バス、路面電車、タクシーなどを利用して生活ができなくはないが、積極的に遊ぶ=観光地に行く、となると車は自由度があって便利である。東京付近から夫婦交代でマイカーを頑張って運転すれば1泊3日くらいで到着するだろう。レンタカーは、軽自動車は24時間5,000円程度で、月のうち半分利用すると75,000円となる。マンスリーレンタカーは、鹿児島では営業していないが、大都市圏では軽自動車50,000~70,000円/月となっている。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① マイカー通勤で、仕事は会社の車を使う人の車は、少なくとも9:00~17:00の間は空いている。短期滞在者とシェアするための方策が何か考えられないだろうか。
- ② 平日の市内は、駐車場も公共交通機関も利用者が少ないだろうから、前述のバスを見せると短期滞在者は料金半額になるようなサービスはどうか。

5. 観

滞在者に有利な観光としては、山登り、温泉巡り、石橋巡りなどがある。山登りとしてはメジャーな所で霧島連山があげられ、そのうち大浪池(おおなみいけ)一周や韓国岳(からくにだけ)登山は、駐車場から往復4時間程度の行程で、中高年でも十分に楽しめる。九州一高い宮之浦岳は屋久島にあり、6月のシャクナゲ登山が最も素晴らしいが、島内の滝巡りと合わせて、鹿児島から2泊3日の行程であれば、余裕をもってこなせる。鹿児島県内の銭湯の殆どは温泉であり、料金は330円である。鹿児島市内の銭湯で、休憩所や食堂がありマッサージもできる温泉として

は、いろはの湯、太陽ヘルスなどが有名である。掛け流しの湯としては武迫温泉がお勧めである。銭湯は無数にあるから、1日1湯としても1ヶ月では廻りきれないだろう。石橋は、移設した石橋公園の3橋をはじめとして、県内に約500箇所あると言われており、鹿児島県人でも精通した人は希であるから、1ヶ月間丹念に訪ねて歩けば、TVチャンピオンになれるかもしれない。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① 滞在者には郷里に帰ってから、鹿児島のすばらしさを伝える宣伝マンになって頂きたい。
- ② そこで、鹿児島の滞在中に撮りためた写真、旅行記、俳句などを応募して頂き、NPOのホームページで優秀作品を発表したらどうか。
- ③ 賞品は、焼酎、黒酢、お米など周年を通して鹿児島を思い出して頂けるものにすれば、隣近所友人親戚一同を鹿児島ファンとして引き寄せられるだろう。
- ④ 短期滞在者が銭湯を利用したら、スタンプ制で10円ずつキャッシュバックするサービスはどうか。毎日入ったら、月の終わりには30円に入れることになる。こういうサービスは子供じみているが、中年おやじにとって嬉しいご褒美なのだ。

6. 趣

1ヶ月間も仕事をしないで異郷の地で生活することは、人生の中でも希な体験だろう。こんな時は、今までやってみたかった趣味に挑戦するチャンスである。1ヶ月程度で初級レベルが可能な習い事として、空はパラセール、海はカヌー、ボート免許はどうか。他に英会話、着付け、お茶、パン焼き、そば打ち、コード奏法のピアノやギター、デッサン、陶芸、太極拳、ヨガ、ジャズダンス、ホームページの立ち上げなどが考えられる。

<あったらいいなと思うサービスやシステム>

- ① 習い事は月3回で1万円程度が相場であるが、毎日の練習を合わせて考えると、ボランティアの講師か滞在者仲間で教え合う方法が良いと思われる。
- ② 場所は、中心部の児童が減少した小中学校の教室を利用し、電気代は実費でどうか。

おわりに

私の予測が当たっていれば、今後は国内でも短期滞在先としての競争が生まれるだろう。鹿児島の商売がたき気候、歴史、温泉、食材、自然などから、高知、大分、那覇あたりか。この競争に勝ち抜くためには、短期滞在者への“もてなし”をどういう形でするかというソフト面を重視する必要がある。そのためには、NPO法人「鹿児島滞在先お役立ちの会」を立ち上げて、ワンクリックで月極の宿泊先とレンタカーを紹介できるようにするとか、観光課や商店会と連携して、割引優待パスを発行することなどが一案として考えられる。いずれにしても、新幹線効果があるうちに、団塊の世代という上客を惹きつける策を早く講じる必要がある。